862
20
77

風俗歌

万葉緯

九

国立国会図書館　　タイトル『万葉緯 20巻』 請求記号 862-77

ガラス使用

862-77

萬葉緯巻第九

目録

風俗
又
鳴高
大宮
玉垂
東道
甲斐加祢
管村

一首三段
一首二段
一首長篇
一首
一首
一首

荒田一首
八乙女一首二段
雜藝
宇波良古支一首
遠江一首
安乃由久一首
神樂乃其駒一首
已上

大鳥一首長篇
我門一首長篇
伊豫湯四首
相坂一首
古名利女一首

安禾不礼波神歌一首
樂師乃十二一首今撰欠
今撰
首今撰
信濃尓安牟奈留一首
竹乃与奈加久一首同
与之奈乃我良一首同
心乃宇知尓波一首同
今撰

以川礼乃佛一首今撰
海道久太礼波一首

国立国会図書館　タイトル『万葉緯 20巻』 請求記号 862-77
ガラス使用

上野歌風俗一首 今撰

宇恵木乎世之古止 今撰

小車一首風俗

衛門府風俗一首

毛乃止奈尓止一首長篇

甲斐仁於加之支 風俗

今撰四首

祝乃所尓一首

△豊統秋カ相兼スル。家業ノ骨髄ヲ記ノ。豊原(トヨハラノ)骨水ト偏旁ニアルヲ以テ。體源抄ト題セルト云。此事物ニアル故。毎ニ人ノ云ヲ也。體ノ字ハ从豊(レイ)。豊(ホウ)ニハアラス東大寺ノ黄熟香ヲ北蘭舎待ト云類ニテ。蘭字ハ東(トウ)ニコソ東ニハアラスナレド。以為東(トウ)ト云ニ。

風俗

奥書ニ云。豊原統秋判ニ云云 績碌集ニ云。豊原楽人統秋 四豊筑後正下ト云者アリ。泰モ後柏原院御師範タリ。又哥道モ無手ナラス逍遥院寛隆公ノ高弟ナリ。ニ云雪玉集云風流者ニテ隠者ナリ。ニ云統秋身ニカリケル時。イタミノ十首ノ内。ノノマヘニまキエヌ雨影モノイハハタエス昔ノコトヤカタラム

上野歌風俗一首 今
宇恵木乎世之古止
小車一首風俗
衛門府風俗一首
毛乃止奈尓止一首
甲斐仁於加之支風俗一首
今援四首
祝乃所尓一首

今援
長篇

帝國圖書館藏

萬葉緯巻第九

洛東隠士似閑編緯

體源抄

奥書ニ云。豊原統秋判ニ云云。績碑集ニ云。豊原楽人統秋ト云者アリ。泰筑後正位下ニ云云。

モ後柏原院御師範タリ。又哥道モ無手ナラス。遠風流者ニテ隠統秋身マカリ入内。ノノマヘハヾタエス昔ケル時。イタミノ十首ノコトヤカタラム。

風俗

朝葛云風俗ハ古人ノ戯言ノ口スサビノヤウニゾ哥ニシ今世近方ヨリシタヒヤヽ成ル也云云
古今顕註 恵ワカノカルタ浦ノ中ニイヘノアヽトウクフハ丹後國与謝ノ海ノタゴノ浦ニイヘノアヽモソノウヽニアリコヽハ湖海ニヽト
康富記云文安五年山城國大住庄内隼人領大嘗會田ト申テ田地一町ヲ又省之大嘗會時參洛於宮廳奏風俗ノ舞人役是也

狛朝葛新續教訓抄 躰源云四条大納言(公任)ノ仰ラレケルハ風俗ウタハヌ人雨日ノ徒然ナヽイカニシテカ。クラスラムト云云又云。古人風俗ヲハ。世人皆律哥ト思フ。シカラサル也。呂律相分也呂哥律哥可尋之又云。風俗ハ諸國ノ古風ヲ集ル也故ニ諸國ノ風俗多在催馬樂中事也廣河限催馬樂雜藝今様童謡之詞此皆多是風俗之流也云云今按催馬樂風俗挙。其所集同而至曲節音聲有別于躰源皆雖以片假名書傚於奥入河海所引催馬樂改真名假名遍奥入以上野歌一首書真名耳然風俗譜亦元書真名假名明矣本朝書籍目録風俗譜一巻云云躰源与拾芥風俗目録合符節依以拾芥目録書于茲而今躰源所不載風俗諸書所出亦載于茲

拾芥抄風俗部 有雑藝

鳴高大宮(ナリタカシ) 又号難波(ナニハ)乃都布良江(ノツフラエ) 震筆如此乃字(コノノチ、ウ) 無之(アラ、ウ)

玉垂(カヒヒカ)

筑波山(ツクバヤヽ) 甲斐加祢(カナ) 伊勢人(イセヒト)

菅村(スカムラ) 常陸哥(ヤラトメ)

八乙女

荒田(アラタ)

我門(ワカカト)

大鳥(オホトリ)

国立国会図書館　タイトル『万葉緯 20巻』 請求記号 862-77
ガラス使用

震業ノ次ノ条
付如此數ノ

雑藝

東遊（アヅマアソビ）

今按以下只有名目。躰源等無章曲。所謂称東遊者。所載朝野群載東舞與代勅撰等所載東遊也。依茲不出章曲之歌。委註別巻東舞者。以神女駁河國有度濱天降事ノ為詠故。称東舞。後世倣其風新詠歌為神遊之態。依茲称東遊歟。求子意未詳。或曰。東遊神社被奉祭。毎度被讀替。云云雖然ト不見其證ノ如何。

朗詠

愚案記躰源云。文應元年十一月六日。内々夜清暑堂御神樂拍子合也。中院御代始也。云云御神樂。コト終ノ御遊催馬樂。安名尊。次鳥破。次ムシロ田。次鳥急。次及平調。伊勢海。次万歳。次更衣。次朗詠。調住。辰々川德。是北辰云々今按大納言公任卿以所被撰朗詠集之詩。應時宜詠歌句中或取音或用訓與以和歌詠歌曲節音聲異依朗詠訓点現在等

今様

躰源抄朝葛記云今様事。哥唱音ナリ。コヒアミキ着ノウタフハ。キカイホ

久選第三孫興公天台山賦云ノ凝思幽巖朗詠長川伊庭氏

百練抄高倉天皇承安四年九月一日於太上法皇御所法住寺殿有今様合事

撰定堪能輩世人
十九夕夜間毎夜一
番敢決雌雄師
長資賢卿不為
判若十三旨仙洞
今様合之次有
御遊上皇令歌
今様給希代之
美談ヘ

シクモオホエテ。ムツカシキ也。前ノ草
ハ始ハクグツミテ。後ニハ遊女ニナ
リテ。両方ノ事ヲシリテ。ノテタカリ
ケル。ハ哥ハ第一ノ句ヲ短ク哥テ吉ナリ。トソイヒケル。
又云。今様ハ。本脉ハ律ナリ。然而呂律
ノヤウハ。呂音ニ哥
ナリ。比巴法師ノ哥。又呂音也。而倭儡
ノ體ニアラテ直ク哥ナガラ。呂音ニ
哥ガノテタキ也。又云。男哥ハ揚聲
ニテ不久テ迄クオロシテウメキニ
テ遥ニ延ク待聲ヲ迅
拾テ。早ナガラノドカニキコユルコ
トハ。詞ヲバ早ク哥モ。振ヲ大浪ニナ
ミヨリテ哥ハ。ノドカニキコユル也。
忠孝云ク。今様近來。其程延タリ。今様

ヨシモト
吉材

八四句ナリ。而一句各一息ナリ。仍其
程ツヾマヤカニアリシナリ又云
今様ハ哥者ノ以ヲツヽミテ唱ハ必ス哥
ニ損スル也。傍若無人ニ思テ哥ガ不
穏ナリ又云。聲ハツヨクウタヘバ
揚ル。緩テ哥ヘハ下ルナリ又聲ハ
吉材ヌルトキハ声ハアリナガラ大
音ニナル也忠政ハ政長ガ説ヲウケ
テ。哥。笛。ヲ知ル人也。其カ今様ノ哥笛
ハ習ヲキヲ披ク人ノ付テ吹ケルハ誠
ニノテタカリケル人ノ催馬楽
笛ノ詞ヲ。其振舞ニテ今様ヲ吹シケ
ルガメテタカリシ云

古柳

風俗内称二我門一
歌是レ乎。可レ尋

田歌
不レ知
其説

沙羅林
躰源抄ニ云續教訓抄ニ所レ載ノ音曲ト
申ハ。一節アル事見タリ。法文哥。習ア
ヘタアリ。イハユル沙羅林ノヤウト
云。常ノ今様ヨリハ。少シフリノヘテ。
オホヤウニアハレテイニ哥フ
ヘシトアリ。只今様ノヤウニ哥ニテ。
比事ヲワクモノナリ。オホヤウナリ
チト云テ。ニクミテ今ハ沙羅林カヤ（所ノ名ヲ名トスルコトアリ）

ウハウタハヌ。アルヒトテ郢曲也ニモテアソヒシナリ。是ハ悉雅樂ノ音聲ヲクタヘシテ。七音七音皆其源ヲモトツクル。殊勝ノ物也。コレモサル間世ニ數奇ナクナリテ今ハトヽシル人モヤレナリ。雅樂ニ同ス

早歌　片下　物様
躰源抄ニ云。教訓抄ニ云。所ノ哥ニハ又別ナルニコソ。法文ノ哥今様片下。早歌。コレワクモノイトカタシトアリ云云今按物様説躰源已上以ニ躰源ノ説ヲ附會於拾芥ニ所レ載。雜藝目録已下只有一箇名目ニ不レ探ニ求其實ヲ或有或无ト為ニ目録一

夏神楽

醍源抄（朝記中）云。多資忠云ク。内侍所ノ御神楽四月ニ行ハル、時。夏神楽ノ作法ヲ用ト云云。夏神楽トハ。庭火ニ唱フ哥ノアルヲリ神楽ニハ不焼火ヲ云。而長和四年六月廿三日。内侍所ノ御神楽ナリ。内侍所両面ノ庭中ニ。庭火ヲタクト云云是ヲ。近将曹重胤カ。依有所申焼之。

倭舞

同云。資忠記云倭舞ノ哥ハ。宮人ヲ用心ナリ。笛者笛舞作法。座ヲ二行ニ歌ヲ。

持統紀三年冬十月乙卯朔戊午云云奉献節儛。私記云献節儛今之吉土舞也

手以補為節度故名云ク

今案此歌無所見

先出テ居也袖ヲ撥合ス。次伏時牙ニ二度。次立テ香寄テ如ト四度。次居テ如初メ袖撥合テ。伏時ニ二度ニテ退入ナリ

安波乃戸

同云。又云臨胡禅脱ハ。大食調ノ曲ナリ。而博雅三伝目録ニ。始テ入平調也。楽ノ詞モ又食調。吹也間曰此楽律准馬楽安波乃戸ノ音振ヲ作之云云

今按此哥無所見

葦柄

同云今世ニアルガラハ。誰人カ哥ラム。日出キモノナリ。宮内大輔基俊カ哥ニコソ。絶久（李ニ、）ル程ノ変ニテハアリシガ。本性ノアルガラニナリタリシ

ナリ。ナヘリテウタフニ節共ノ。フカシキナリシ也。
雜藝タリ。此事不然。政長朝臣家哥
笛譜ニ。以足柄哥笛譜ニ入風俗部也。以
禮記樂記ニ云今夫新樂進俯退俯姦聲以濫溺而不止及優侏儒狹雜子女不知父子樂終不可以語不可以道古此新樂之發也 集註ニ俳優雜戲侏儒短小之人如猕猴之狀間雜於男子婦人之中不復知有父子尊卑之爭狹同ニ狹ノ字
本朝文粹ニ三輔散策 邑村御製
結句ニ學ニ峽猿之奇態ニ。今按散与猿同御製被依樂記見矣新猿樂記曰都猴樂之態鳴噭之詞莫不斷腹解願者又云

神歌

至ニ于歌ノ註ニ之

猿樂

同云音曲事。私云神樂催馬樂朗詠今様梵音。以下ニモアラズ。哥ヲフシヲツケテウタフ事ノアルナリ琵琶法師之ウタフニモ又アラズ。中昔ハ白定緣者鳴噭之神也先見其於能者

△猿樂或ハ作ニ散樂ニ事ナリ。如此ノ音曲ニ出來シテ。

△文獻通考ニ散樂ハ野人為ニ樂之善者非部伍之正聲也

江談抄

拍子トテ。遊君ノウタフコトモ當世

呪師猿樂於ニ營始事 又呪師猿樂等物

營始事復ニ三條院令ニ供養ニ圓宗寺ニ給之時

舞裝束為ニ人之擇後細朝臣始構ニ於事ニ也

源ニ二向昔ハナキヲナリトテケンモホロ、ニ云ヘル猿樂ヲ悪ク(ヒ)ル(ク)ル(ヒ)ト
有ニ謂ヒ拾遺ニヨリニヨリニ夜廊テサリニサリ寒キニフリチウ陰(クモリ)寒ヲ
アリテウ冬ラムト云ヘルモノトテモカヽル藪濱
ノコトハツ、ニテモイハサル(キ體源ニ此ノフリテウフクリハ如何ニト故云ヘキ
為ラ不審ニ存ル者ヲモツテ作ト云ヘリ 種季曰

ナリ。ナマリテウタニ節共ノ。フカシキナリシ也。

雜藝タリ。此事不然。政長朝臣家哥笛譜ニ。以足柄哥笛譜ニ入風俗部也。以

禮記樂記ニ云今夫新樂進俛退俯姦聲以濫溺而不止及優侏儒獶雜子女不知父子樂終不可以語不可以道古此新樂之發也 集註ニ俳優雜戲侏儒短小之人如猕猴之狀間雜於男子婦人之中不復知有父子尊卑之孝獶ヲ猱同ニ

本朝文粹ニ三輔散茱 邑村御製

結句ニ學ニ峽猿之奇態ニ。今按散ヲ猿同御製被依樂記見矣 新猿樂記曰都猴樂之態鳴嘶之詞莫不断腹解顧者又云

神歌

至ニ于歌註ニ之

猿樂

同ニ音曲事。私ニ云神樂催馬樂朗詠今様梵音。以下ニモアラズ。哥ヲフシヲツケテウタフ事ノアルナリ琵琶法師之ウタフニモ又アラズ。中昔ハ、白拍子トテ。遊君ノウタフコトモ當世

定緣者鳴嗟之神也先見其於能者

△猿樂或ハ作ニ散樂ニ

△文獻通考ニ散樂ハ野人為ニ樂ヲ之善者非ニ部伍之正聲ニ也

江次第標註ニ散吏猿樂也

東鑑建久五年閏八月二日ノ條ニ參ニ猿樂ニ小法師中大丸。

施藝上下解顧ニ云

種季云宇治拾遺ニ御神樂ニモ猿樂アリテ陪從某ノ人ノ子ニ云ヘリ然ニハ昔ハ伶人ノ中ヨリ猿樂ヲモ勤仕ル心ト見エタリ而ノ今體源ニ一向昔ハナキヲナリトテケンモホロ、ニ有謂ニ拾遺ニヨリニヨリニ夜廁テサリニサリアリテウ矣ヲムトニ云ヘルモノノトテモカ心藪瀆ノコトハツ、ミテモイハサル(キ體源ニ此ノフリチウフクリハ如何ニト故ニ云ヘキ歟ヲ不審ニ存ヲモツテ作ト云ヘリ 種季曰

ナリ。ナヽリテウタヒニ節共ノ。フカシキナリシ也。又云足柄ハ世人構雜藝タリ。此事不然。政長朝臣家哥笛譜ニ。以足柄哥笛譜ニ入風俗部也。以之紫之足柄ハ風俗歟云云

神歌

至于歌註之

猿樂

同云音曲事。私云神樂催馬樂朗詠今樣梵音。以下ニモアラズ。哥ヲフシヲツケテウタフ事ノアルナリ琵琶法師之ウタフニモ又アラズ。中昔ハ白拍子トテ。遊君ノウタフコトモ當世猿樂トテウタフコトハ。一向昔ハナキ事ナリ。如此ノ音曲。世ニ出來シテ。天下之亂オコル事有之也。樂道ニ生ウタフヘカラズ。來者。カリソメニモウタフニエタリ。論語唐ニモ其事ハアリト子曰惡鄭聲之亂雅樂ノ如此イヤシキノタリ。不調ノ音曲世ニ充滿スレハオノヅカラ雅樂ハスタレユクナリ。當世ノ躰等全ク此義也。雅音ハ更ニ面白モナシ。淫声ハ人コトニ賞亂ノコトニナレリ。人ノ心ユカミヘツラヘルニヨッテ。仏神ノ御心ヲ敬嘆申雅聲ハ。人ノ心ヲ面白トモ思ハヾアサマシキコトナリ

定緣者鳴嗟之神也先見其形能者復樂之仙也未出其詞解万人之頤云々

源氏乙女巻
サルカウガマシク
宇治拾遺御神樂ノ織事家法
二ケ条樋口氏
清少納言枕草子
入道殿のさるうまハ

国立国会図書館　タイトル『万葉緯 20巻』 請求記号 862-77
ガラス使用

妙音院大相國禪つゝ琴を彈て四の
調子のなるひゝ絃をさすると白拍子
ありけり曲を半ばかりに音ども
の變をゝれ〳〵ちがひてたてまつりをあまさせたて
給ふ姿なり詠曲分明なる名譽の琴とそ
のゝしりける

風俗事十四首ソノ負
數サダメカタシ當座
ノケイキヲモ万葉
集ナトノ哥ヲモ詠
スル也又ヒタチ哥
トテ十四首中ニ
待ルコトヲ又ベチノ
秘事イヒテ哥トテ待ルナリサレハ
說有歟

風俗

鳴高 又號大宮

西宮記云。有政日。事辨就結政如
常上卿入外記。戸官掌唱鳴高
奈利太加之也奈利多加志同於保美也如
ナリタカシヤナリタカシ
ロ鳴ノ高ナリタカシ大宮カシ近
加久天奈利太加之安波礼乃奈利多加之

二段

オトナセソヤカトナセソ

於止奈世曽也於止奈世曽
音勿為

三段

風俗事十四首ソノ負ケタルモノニ當座ニ歌サタメタルニヤ万葉集ナトノ哥ヲモ詠入ル也又ヒシテ哥トテ侍ルナリサレハ三説有歟

風俗

鳴高 又號大宮

西宮記云。省政日事辨就結政如常上卿入外記戸官掌唱鳴高(カノナニ)(カホミヤケ)(ナリタカシ)(ヤ)(ナリタカシ)(ヤ)(ナリタカシ)(ヤ

一万葉并三日置并先
縄乃浦ニホヤクケ
フリタテ山ニタチ引向
山部赤人縄浦従
ソカヒニ九オキツ
シマコキ名舟ハ釣
ラスラヲモ此哥武
庫ニツケ書スヘシ
損津國ニ縄浦アル
ヘシ今按題難波
トカキ哥ニナケヨメ
レハニノ字ハ容セル
秘セリレカハツクラ
エモ難波向ニアルヘ
シ
大木モミナヌル高
津ノ宮ニ吹ルノミ
キンアラフナハノ浦
ナニ實家
今難波権立郎殿文
新郎霊ノ社ト俗ニ云
ナハヒル社ノアタリ
ラ津村ト云ヘリクラ
トソムト通スル難波ノ
ツクラエ是ナ 大木サミツクラエノヒナノ霞モ春キエテ霧立ロクル秋ノタ暮 隆季

アナオモコムトモアヤ
安名加一万古年止毛也。美曽加一奈礼
女 難将来 在
難波ノ都布良江
ノセナヤハルナレハ
奈波乃川ホ良衣年乃世奈也波留名礼波。
背 春ユ 在
ハノツクラエ
奈波乃川ホ良江
ナミテユルナハ
加一須美夫美由流奈一波。支一利太一知和一多
所見 霞
一説安一支奈礼波。支一利太一知和一多
留川ホ良江乃世奈也。
袖中抄云秘説トテ春夏ハ如レ此ウタ
ヒ。秋冬ハ。キリタチワタル。トモ。キリ
テモミユルナハノツクラエトウタ
フ如レ此説ハ時ニヨタガフニハアラ
ヂ。本ホニ如レ此哥ノ欤

古今集雑寛平ノ
御時ニウヘノサクラヲ
折ケルカノコトモカメ
ラモタエテキサイノ
宮ノ御カミカホニ
キノカロヒト例ニ奉
リケルクラストモワ
ラヒテカメラカ前ニモ
テイテ、トモカニミイ
ハス成ニケレハカヒカ
ヘリテサナムアリツ
ルトイヒケレハシラス人
ノナカニラクリケル
敏行朝臣玉ノヒカヘイツコロキノ磯波ワケカキニイテニケリ
古今六歌所御哥
コヨロキノ磯タチ
ラレイソナムメサシ
ヌラスナカキミラ
ナミ
チニラミガ

玉垂

タマタレノコカメ

多一万多礼乃。古一加一女一子名一加仁須一衣天同安
玉 垂 小 磯 主
留一之波毛也。尤一加一奈毛奈支一尓尤加一名毛一止
イモトヤ河海 居 中 君 無 有 者 来
加一米加一利安一介尓
和布 刈 揚
女尓

二段

ユルキノイソニワカメ

古一由一留支乃伊一曽尓。和一加一米加一利安一介尓
小余綾相模 磯 和布 刈 揚
知知良良
チヽラヽカトニソタ
知一知良一良加。加一止尓宇一曽不一伊万一呂古曽多
嘯 麻呂 社

續詞花集旅信
濃守三子待ケルヨト
セシテ、ホリケル美
濃國ノ野上トイフ
處ヨリ上ルニカノ國
ノ守和房朝臣セウソコニテ酒ナトオコナヒケル返事ニ藤原永實コトノハノ露ノ情ノミエヌレハウヒシキ旅ノ草枕ナ
ミタノヤ

東道

天礼乃天守止比尓尤介天
之礼毛世尤良乃年於乃礼
天加止尓天守止守比尤介天
安乃川方知尓加留加也乃与古於保知尓奈
尤介守加以加留加也乃見祢年波也古止
年毛也春良尓加留加也乃之尤加以加留
加也乃

筑波山

川久波也方波也方之介也方之介支守曽
多加古毛加与不年奈之太尓加与戸和加
川方波之太耳

甲斐加祢

加比加祢波之呂支波由支加也伊奈守尤
乃加比乃介古呂毛也尤良春天川久利也
尤良須天都久利也

四宮記臨時土
私遊宴事 夫
於律遊者用平
調遊呂遊者用
双調至于他調遊
時用之俱律呂
遊以歌為本樂
曲相交々声於
和琴先常座同
音數度以甲斐
各獨唱風俗歌
也云々

古今ツクハ山ハ山ヒケ山ヒケトオモヒ入ニハサハウサリケリ

国立国会図書館　タイトル『万葉緯 20巻』 請求記号 862-77
ガラス使用

萬葉第十四云。ツクバネニエキカモ
フウル伊奈守可毋カナシキコロガ
ニヌホサルカモ袖中抄云ケコロモ
ハ古哥ニツルノ衣トヨノルハ鶴
ノ毛ノ白キニヨセテ。白キ衣ト云歟。
又襲ノ衣トヨメル歟。イナハイナム
トイフコト有バ。衣サラス人ニテアラ
ン。云云今世此風俗ハ。万葉ノ哥
ニヤ。万葉ハイナヨカ
モニテヲハ
添字ナリ

伊勢人

イセヒトハアヤシキ
以一世比一止波。安也之一支毛乃千ノイ也。奈一止一止伊
伊勢人 県 指遊覧 物 云

筑波山ニ雪ノフレルカ。イナサニハアラヌカ布
ヲ干ルニテアルベキカトヨメリ

ヘハラフなニノソテ
戸波。守不祢尓乃一利香
ラ苔ノ村 小舟ノウヘ 菜ノウ
戸守。名美乃宇戸守古久也
槽

朝葛云即遊イキハ元常陸哥ヲ哥フ也此哥ハ令深物哥也次又可致朗詠深物音無如朗詠云

菅村

スカムラノヤーウレコ
須加年良乃也和一礼古曽春加元良乃也年
菅ノ村スカムラノ 吾 社カイナハワレコソ
良乃也。春一加年良乃也。於以天波和一礼古曽。
カイカラノ
加一伊加良女
蟻

常陸哥

ヒタチニハシラフコソ、、ロ
比太知尓波。多守古曽川久礼安一太古一呂。
常陸 田 社 作 化守偏守心

国立国会図書館　タイトル『万葉緯 20巻』 請求記号 862-77
ガラス使用

カノトヤキミハヤヤ
加女止也支美波。也万辛古江。乃辛古衣。安
君 山 越 野
ユトヤセル
万由支万世留
来 座
奥ヘ入作ル弟ミ句ノ多礼辛加祢波結句
支美加安万太支万世留ノ
荒田
アラクニカフルトミノ
安良多尓於不留止美乃久尤乃波名。夫尓
ツミレラヘヤイミ ラムヤロッタヘ
川美礼天。美也戸万伊良宇也。加川多戸
大鳥
オホトリノハネニヤナテニ
於保止利乃波祢尓也
大 鳥 羽
ナムレモフレリ
礼奈年之毛不礼利。
曲節 霜 降

和名鈔云本草云
鸛音官和名水鳥
似鶴而巣樹者也
同唐韻云鸛音安
加夜久木雀鸛小鳥也
同崔禹錫食経云
栄花物語曰作髭
火賛會慫記方祭
主輔親楽ノ急カナ
山
カナ山ニカクノヨサセ
ルトキハ木ノカミカヘ
ベスクニノトミ草

鴫又有一種相似而
小シ色蒼黒並有水
溯間漠語抄云蒼
鴫美止佐木
朝葛之大鳥其駒ハ
如楽之破急大鳥
ヲハ延歌天其駒ヲ
ハ早哥也神楽哥
ヲ時ハ初三反ハ三
般拍子ヲ打之ヲ其
後ニ入白子ヲ打ヲ
ヤレナムメレワサイフ
也礼奈年多礼加尤以不
誰 然
ウムカヤノキヲサイフ
良年加也久支乎尤以不良年安良之也安
鸛 千鳥
トトリラサイフ
良之。加止利毛伊波之。加也久支毛伊波
所
シレミトサキモキヤウヨ
シレミテサイハレン

荒沖云

源氏若菜下。心ちなどいとあしきを忌。まのやうなる
旬宮ぬのぬきてのおりろくなどもの
おもしろきに河海求るの所
よもぎ。細流風俗の八乙女と求るとき
よくうたふみのようなど。花多礼の所ハ求
ハ乙女ヲ求るトモ云ル赤ヨム歟此二段ノ加美乃也須トアル
注奥入ニカミノヤストニウタヒモ河海ニハ祢のやをトウタフ
ヤトアルハ

カノトヤキミハヤスミ

加女止也支美波。也万古江乃辛古衣。安

君 越 山 野

万由支万世留

来 座

奥ニ入作弟三句ノ多礼辛加祢波結句

支美加安万太支万世留ノ

栄花物語日陰鬘
犬賞會傚記方祭
主輔親樂ノ急カナ
山カナ山ニカクノヨサセ
ルトキハ木ノカスミカセ
ベスクニノトミ草

和名鈔云本草云
鸛音官和名
於保止利水鳥
似鶴而巢樹者也
同唐韻云鸛音安
加夜久木雀鸛小鳥也
同崔禹錫食經云

荒田

アラタニカフルトミノクサノハナテニ

安良多尓於不留。止美乃久。尤乃波名。矢尓

ツミレフニヤヘヤイラムヤツクヘ

川美。礼天。美也。戸万伊良宇也。加川多戸

大鳥

オホトリノハネニヤ

於保止利乃波祢尓也

大 鳥 羽

礼奈年之毛不礼利。

曲節 霜 降

鸛又有二種相似而
小シ色蒼黒並有水
溯間漢語抄云蒼
鸛美止佐木
朝菊云大鳥其駒ハ
如樂之破急大鳥
ウハ延歌其駒ウ
ハ早哥也神樂哥
フ時ハ初二三反ハ三
般拍子ヲ打之ノ其
後ニ入拍子ハ打テ
早成也云云

ヤレナムタレワサイフ

也礼奈年多礼加尤以不。知止利乎尤以不

誰 然 鳥

良年加也久支乎尤以不良年。安良之也安

鸛 然 有

良之。知止利毛伊波之

所 云

之之。美止尤支毛。京与利支天。尤以波礼之

蒼 鸛 自 来 然 所 云

八乙女

ヤトノハワカヤラ

也乎止米波。和加也乎

八乙女 吾

ヲトメノタツヤヲトメ

乎止米。太川也也乎止女

同 曽多川也也

立

二段

哭ヒ女哥求子ノ
哥トス源氏引歌

国立国会図書館　タイトル『万葉緯 20巻』 請求記号 862-77
ガラス使用

加美乃也須古乃美也之呂乐伊万須多加
神座此社御座
一説 多川也乎止米太川也乎止女乃波良乐。
原 高 下以奥

神人

我門

宇奈乐也。之太留古也名支。之太留加以天
小柳
波乐。奈乐也。之太留古也奈支。之多留加以天
國郡將昌將為富
止曾止美也乐和以户曾太加江乐。古保利曾太加江乐。
吾家
波也。久乐曾在加。乐。古保利曾太加江乐。太
里
止曾止美也乐和以户曾太加江乐。之多

宇奈乐也。之太留古也名支。之太留加以天
波乐。奈乐也。之太留古也奈支。之多留加以天
止曾止美也乐和以户曾太加江乐。古保利曾太加江乐。太
波也。久乐曾在加。乐。古保利曾太加江乐。太
止曾止美也乐和以户曾太加江乐。之多

雜藝

宇波良古支

宇波良古支乃。之太乐波。以多加不江不久。
笛 吹
太留加奈川。以名古方呂波
蛤 蜊或
支利須波。鉦鼓宇川
皷
支利須波。鉦鼓宇川。支利
蜊 蛤

今迎江ノ入荊春
白ト花咲物ヲワ
ノチイハラコギトニ所
謂ル葱冬花ニシ
テ周ニクス花イ
バニナリ
和名抄融亂以太
知
同本草ニ蛸蛭作
二音和名以貌似
奈古万呂
似蝮蛇而色小蒼
在田野間者也

国立国会図書館　タイトル『万葉緯 20巻』 請求記号 862-77
ガラス使用

下河辺長流イバ
ラコギイツシリスギ
テレヅノカ垣花
サノ見ノキヌラン

万葉二長哥畧
ミユノウヘノコムラフ
ミレハオミノ木ヒ生
ツキニケリ

狭衣第三ニ云。又 世代サシヨリテ。其ツギカ
ナテラ〳〵ト。ヒヂシテ テツクメレバ。イ
タチフエフクサルカ ナヅトヒ五姫君タ
タマチフラ。ハハシロウ。イトオモシロウ。
メデタフ思フニ。エクタエズ。心モスミ
タチテ。スエニマチトリテ。アフギウ
チナラシテ。イナゴマロハヒヤウシ
ウツ。キリ〳〵スハ。ナトホソメアケテ。
クビスヂヒキタテテ。タイレカヘリ〳〵
ヒク。ソバガホノ。ミスニスキテミユ
ルハ。オカシナドモヨノツネノ事ニ
ソイヘ。云云此コトバラ以テ改正

伊与湯　雑藝催馬楽
イヨノユノユゲタバイクソイサシラズ
以与乃由乃。由介多波伊久川。伊尤之良須
湯　湯桁　幾　率　河　不和

古哥ニイヨノユノユケタハイクソ
ハツ右ハ九ツナカハ
十六

物ミソハ。ケノヤタ
エズアル物ニソヨリ
ケル状

神楽ラホミチノ
クノアタチノヘラワ
カヒカハヤウヤノヨリ
コレノヒ〳〵ニ

ヤカスヘヅヤカスヘスヨ
也。加須戸春也。加須戸春与 不等
ヤナヨヤキミソレルウ
也。名与也。支美曽。之留良宇 君レクレタヨリ 知覧
イヨノユノレトタエメヤテ 自下下
以与乃由乃。之太。多与利。和久乃之良以止 志テ
ノヤクルヒ 絶 綟 高来ケルヤ
ノミゾアリ
乃尓曽安利介留也
有イヨコエノナコヘノツツワカヒカ
伊与古江乃奈古戸乃川良和加比加波 越 名所宇 菖 蔓
ヤウヤヨソコヤレソヨ
也宇也宇与利苦。也礼。曽与也。名。也。之乃比 引ナカテヤシノヒニヤ 高来 漸レノヒニヤ
忍 忍

国立国会図書館　タイトル『万葉緯 20巻』 請求記号 862-77
ガラス使用

伊豫ニ無ク多介郡ニ有リ和気郡ハ湯泉郡ニ隣レリ多介和気誤テ又多和ニ通ハシ訓ニテ

イヨノユノサウハ以ヲ与乃由乃ヲ左良波ヲ多ノ知ヲ天ヲ美和太ヲ世波ヲ

タケノコホリハ名所ヲ

多介乃古保利波ヲ天ヲ美由也

和気郡ニテ

今按以下非ニ伊ヨ与ヲ湯類ノ歌ニ失ヒ訓ニ見ユ発句ノ為ニ題ヲ

遠江 止保太濱名 波万 和名奈

遠江

トホタフミハマタ

重之家集水ノ上ノ濱名橋モヤケニケリ打ケン浪ヤヨリコサルラム枕草子ニ君ニかけあふこの祓けてむけう濱名の橋とさりもやの橋ハ三代實録四十六ニ遠江國濱名橋長五十六丈廣二丈三尺高一丈六尺貞観四年修造二十餘年已以破壊

止保太ヲ不美ヲ波万太ヲ乃ヲ波之乃多由久波奈

濱名橋ノコトヲ

古以加也ヲ不名加也ヲ波江乃古止毛乃ヲ安曽

子等ヲ遊ニ

不名利介利也

多田以下

相ニ成ル乱レ脱ヲ

相坂

アフサカノセトノコナンハタケヤマヲ

安不左加乃ヲ世支乃太名古太波ヲ奈ヲ止加也

相坂ニアリ

奈ヲ支美尓安波ヲ川乃古ヲ古呂也ヲ方之ヲ奈也

栗津寄不逢心

山高疾科

古今悲一音羽山音ニキヽツヽアフ坂ノ関ノコナタニ年ラフル哉

栗津相坂ヨリ此方ニアリ山科御ニテ山城内山科御ノ内ヲ庵ヲニアハツノ原ノミクルスノノリトイヘル古今ニ可考合 樋口氏曰ク八ツ栗田欤音通

古奈利女ハ古奈美ニ利ヲ加ヘ多ノ心ヲ九ヘテ女美ハ音通ヲ又一ハ音通和名鈔ニ顔氏ニ前妻 和名ヲ止豆女ト云

アノユノハミユカヤ

安乃由久波ヲ見由加ヲ美由奈良波ヲ

カヨキコノフネヤレソヨヤナイノヘ

於支古久不祢ヲ也ヲ礼ヲ曽ヲ也ヲ名ヲ也ヲ以曽戸

沖ノ渭ヤ舩ヨヲ

由久也ヲ介ヲ与ヲ也

アヲ挙四字ヲ安美假字ト雖ヲ別ニ推察ス磯方

行ニ以テ附ス真名ノ後ニ人正ヲ之

古名利女

コナリノハヽキニケル

古奈利女波ヲ支ヲ尓介ヲ留毛乃ヲ手加ヲ良須天不

前妻ヲ来ル

物止ト云

古奈美
久呂止利ハ和名ニ鴟ク久呂止里トヨメルヲ是ハ鳥ノコトナレハシ和名鈔云唐韻云鳥衆都久和名加良須尓雅云純黒而久呻者謂之烏

クロトリヤツノヤレ

久呂止利也。川乃也。礼曾与也奈也。以未太

烏 罵詞ヲ コスヲツ

古須天川也

来 曲節ヲ

神楽乃其駒

ソノコマヲレニクサコハム

曾乃古万曾也。和礼尓和礼尓。久左古波年

其 駒 草 将ハムト

久左波止利加波止。美川波止利久左波止

取 将飼

利加波ヲ

ムヲ 乎神楽

朝葛記云其駒ハ本躰風俗ナリ。而ルヲ一條院ノ御トキ。朝倉其駒ハ神楽ノ無下ニ尾モナキ事ナリ。當時ハ神楽ニ哥ヒ舞スルヲ

ナレドモ。本躰ハ風俗ト習フ也。統秋書入ニ云昔ハ風俗ナリ。堀河院。神楽ニハサセ給ハヌ事云云

神哥事

柏朝葛之記所抜書中神哥今様等載ニ于茲ニ而亦為ニ真名ト矣

神哥亦見孫姫式今畧于茲

神哥ハ昔ハツ、メテミシカク哥ヒケル也今ノ世ニナガクナリニタリ。敦家ハサソノ給ヒケル。顕仲云。神哥ハ前句未哥終ニ籠ザイテ。次ノ句ヲ出スナリ。或云侍従大納言成通雲林院ニテ鞠ヲケフラレケルニ。雨ニハカニ

寶方家集ニアルシンナミノタメイハミノ水ノツヅクトイハヤユカムカモフコロハ
晴岭日記ニヨロツ
恩フコトノミニゲキライカデツヅクトイヒシラスルモノニモガナトカモヒミタルニ
ツヅクトニ詞神代巻万葉集借字類抄等ニ出タリカノミヤハトホ記之

フリタリケレハ。ハシガシノ下ニ（階）（隠）
立イリテ階ニシリ（ニシ著）
ヲカケテハレト
ルホトニ（アメ）（雨）（ハ）（降）（ヤモ）（ノ）（軒）（ヲ）（ツ）（ツ）（ブト）（言）
以波波也毛乃乎古乃呂由久万天（物）（心）（行）（迷）
安米不礼波。乃支乃多未美川。川布川不止
ト云神哥ヲロズサヘレケル程ニ格
子ヲ内ヨリヲシ。アケテ。女房ノ聲ニ
テ。此程コレニ候人ノ。モノ、ケワツ
ラヒテ候カ。只今ノ御声ヲ承テ。アク
ビシテ気色カハリテ見エ候ニ。今少
シ候ナムヤトスレハ。（水）（ノ）（ト）（雨垂之声也寄風話）
ギテ。堂ノ内ニ入テ
ノホカニ井テ

イツレノホトケノグワンヨリモ（ホトケ）（ヒシヒシ）（チカニソ）
以川礼乃佛乃願乎里毛。千手乃知加比曽。
（何）（ノ）（ニシキカレ）（ク）（白）（ク）（ク）（ク）（ク）
太乃毛之支加礼太留草木毛。多知万知尓。
（頼）（ナ）（サキ）（ミ）（ナ）（枯）（有）（キ）（ト）（ク）（ク）（ク）（ク）（ク）（忽）（ク）（ク）（ク）（ク）（ク

クモノイトカタシト
様ハ。ヲソヲキラフヘシ。春ハ春ニツケ。夏ハ夏ニツケ。秋冬モ同之。月ノ比ヤミノヨシヲウタフハ。アルヘキ事也。又女房ナトノ前ニテ。アンロニテ蓬萊山ナトノカシ。如此事ハ哥ヒモノニカキラヅ。樂人モ同事也。メサレテ哥ツカマツリケルニ。

海道久太礼波。奈美多加之。山道止旅毛。戸波。須久礼天也。万支比之。万之天北陸道波。

勝 山巖 増

ユトタカムナルモノヲヤ

由支多加奈留毛。乃辛也。以尤尤波。伊都世。

雪ニカ高多良ム 在物 卒然 伊勢

知尓加加利奈牟

路 掛

此哥ヲ哥フアイダバテノ句出サムトスルニ。哥トシテノサレテ。御定ニ。コノツキノ句。イサヽタリ井タラム。トウタヘハ。其ヨリ其定ニツカマツリタリケルニ。御心モアヒカナヒテ。感シオボシメストテ纏頭給ハリヌ。

又同院ノ御時。哥近藤ト云モノ。御前ニメサレテ。哥ウタハサセ給ケルニ。思ヤウアハレナル哥ヲ。ウタハムト思テ出シテ云

若沖云
宇治拾遺ワレカ
身ハ竹ノハヤシアラ
ヌトモサノカネヌ
キソカシケル
金光明経云暴世者
王摩訶羅陀生三太
子ニ小子名曰摩
訶薩埵出遊林野
見有一虎適産七日
而有七子周匝圍
繞飢餓欲絶
言我今為利一切
衆生求於菩提
捨難捨故卧餓虎
前虎無能為
不乃即以乾竹刺
頸出血放高山上投
身虎前云

タイシノミナケユウ
太子乃美奈介之夕久
キタケノハ身ニ投ワレノ
支竹乃葉仁和之
ソハアレドモ驚ヌレ
川波安礼止毛奴之
雖有
此哥ヲイタシタ
ラヌサキニヨト
リニシタガフ
ベキコトナリ
シタキトモガ
女一人クシテ。月ノアカキ比。三条坊
門東ノ洞院ノ
ケリ。カヽルソノ程ニアル所ニヨキ声
ニテ。哥ウタフ
トバヽリテ是
ヲキヽテ。哥ウタフ
モノアリキ。シバラク
ヲキヽ。案ノゴトクノ男

ヒトリシテ笛ヲ吹。二人今様
イハクトンチカハキミニノ
ウタフ其哥ニ
ノニアムナル
之奈乃尓安奈介留支曽和加波。支美尓於
有
毛比乃不加介礼波。美支波仁曽天乎。奴良
信ニノ源ヲヌセヲ
之川川。安良奴世乎古曽。須支川礼
不有
是ヲ。エモアヘヌ
瀬
ハ其女ノウタヒ
又天王寺ヘ参リ
ロニトイヒテ
ソニノトコロヲ
ノモトニテ。スグ
イソテ今様ヲ
スニイダシテ
イハク

世ヲコソハ古語ヲ
コヽロセニセムナト
ヨメリ古枚ノ旧
事記ニ見エタリ

国立国会図書館　タイトル『万葉緯 20巻』 請求記号 862-77
ガラス使用

タケノナナカンアハ
竹乃与奈加久。安波礼奈留。不之毛尤太女
（両節間ヲカキツ、トヒトニ哀レ）
須於支為川川人尓之
（トリ起ノナクニテチモ）
止利乃名久万天。祢毛以良須
（居）
鶏
此哥。サセルフシ
（鳴）（迫）（寝）
ヨリテ奥モアリ
ニ。人ノカタ
ヨレナリシナリ又
ヒトリアハソ
与之名乃和礼良加
（無ヤ由ケキフユノ我ヨリ等ニ）
尤也。介支冬乃与尓。衣波宇須久天。夜波尤
（清シタノモヒトハ夜）
（頼）
尤之。多乃女之人波。万天止古須
（簿コズ）
（寒）
（待不來）

（ニテ煎盛拾遺恋忍フヒト色ニイラニケリ我恋ノ物ヤカモフトヘノトフニテ）

又

コロノウチニハシノベトモイロニハイデケ
心乃宇知尓波之乃戸止毛。色尓波以天介
（中ワガコヒモノヤカ雖忍フトミルヒトノアリ）
利。和加古比波。物也思不止。美留比止乃。安
（ヤメ吾テイカ戀ニトトフニテ）（見）（異）
也女天以加尓止。止不万天尓
（如何）（河）（迫）
已上イカホドモアレドモ略之云云
已下諸書所出
於出所只奥入上野歌一首書真字假
字餘者倣之書矣

上野歌風

後拾冬ハ玉ノ
ヲテコホル原池
ハ春トトモヤ波
モミヘキ
藤原荇善
カモスカヲハ生ニ
東ナルヘレストツト
通多ク東スルホ
トニ生スルヲミナ
ルヘシ

今様

シラカヘカモサヘキ
ナキ川ハラノイケ
ヤ支為留波良乃伊介
乃也。多ク万毛波万祢奈加利曽於比毛須加
祢也。万祢奈加利曽也 奥入全
六帖原ノ池ニオフ 篇如此
メニ君ヲ我オモフ
抜万祢奈ハ万奈ニ同レトモ万ノ名勿ナリ無
ハナカリソト同レ詞ナリ
孝徳記唯識論等ノ讀也源氏真木柱
枕草子等ニ玉モハ
リ

大納言成道齋院ニ
参テ。即遊有ケルニ
宇恵支宇世之古止波。宇久比須奈加世年
止尓毛安良須。久川保宇之宇奈女須
江天。讀經世尤世年止
トイヘル今様ヲ。當座ニウタヒカヘ
テ。カウナギメヲナ
ミニテセン。トウタヒケレヲ。時
ノ人感シテゲルトイヘリ

小車 風俗

宇久留乃伊礼天。支乃比毛止加竿。与比和
祢留万伊礼天。支乃比毛止加竿。与比和

和名鈔十九蝉ノ
類下ニ蛁蟟和名久豆保
久豆保守之

齋宮禁詞見延喜式

若沖云
豊受皇太神御
裝束式 刺車
錦御被二條黃
地以黑絲織小車
紋放軸並

允恭天皇御製
サヽラガナニモキノ
ヒモラトキサケテ
アマシハヲスミダ
ヒトヨノミ

若沖云
継體紀妃和唱曰
ツカホキミノオ
廣細ルサヽラノミ
オヒノムス弥タタ
レヤレヒトモウヘヽ
ナケク

万葉第六之廿七
山ノ葉左佐良狼
壯子天原門度
光見ラムヨヒモ
右或云月別名
曰佐散良壯士也

乎之乃波波。支可奈。和礼
レノハヽキカナ ワレ
之乃波支与。川農左以保天介良之
忍 吾ホテケラシ 忍

袖中抄云此哥ヲ
ヨムトハミエタレ
ナヒ。若キノヒト
トカムラ。文字ノ落欤。慥ナル本説ヲ
可レ考。ヨヒト云詞モアリ。又ワレシノ
バキトヽ云詞モアリ。綺語抄ノ哥ニ。シ
ノフヘシムスビモアヘヌヲグルマ
ノヨヒヒヨヒゴト
フハ。此風俗ノ哥
面小車トイフ風
エタリト申セハ
ニ不レ知ヤ侍ラム

同三之四十六天有左佐羅能小野ノ同十六之卅一左天尓有哉神樂良能小野尓

梁塵秘抄口傳曰
熊野乃椎現者。奈久佐乃濱尓曾。於里多麻
フワカノウラニシテハヒロヒモ
布。和哥乃浦尓之麻之麻此者。年者行止毛
君王子

右以レテ梁塵秘抄口傳ノ書之然共以テ歌本ノ
悉不レ取要

頭挿(カシ)花事或人云
舞人冠ニ挿シ花時ハ
必カサシ花ヲサス
キ之時ノ花ヲサス
キ久ハ其季ニ可
隨之ヲ作リ花
ヲサストモ其季ノ
花ヲサスヘキナリ。
恒例會式云ヽ稲
荷出居。三月夕、
ラヘノ生花。鳥
帽子有之。同御
祭門外ノ花也生
花也今按タラノ
トタラヘト音通
梅ニハアラサル歟
まきをけ柳云
うすいろの又萌黄
ようのをも唱
なもつえそえて
うつくしきものを
枕よき妻はもうく
こころゆるすなひと

御門府風俗歌

ラヘノハナノコトカイ
多多良女乃花乃如。加以祢利好(ヨシ)夜減(ケム)紫
ノイロコノム(ヨシ)ヤ政事要畧
乃色好(ヨシ)夜。(減)

岷江入楚引此哥云タヽラメノ花ハ。
只梅ノハナノコトクナレバフレニヒカレテ。タヽラメト
別ユル。樒練ハ兩面フクサバリニテ
中重ナレ。紅色
也云云
保子村上皇女
ヒメ宮ハヽダイトワカクオハスレバ。
アケヤカニカヽルクオハスルニ御琴

かねてから
ねもころ思ふ

ライトオカシウヒキ給ヘハ。キヽ給フ
ヤ。コレハイカニヒキ給フソト。ノ玉ハ(村上)
スレハ。母(正)御息所。三尺ノ木丁ヲ御身ニ
ソヘ給ヘルヲ。木丁ナガラ井サソヨリ
給ホトヽナヽ心ソキナク御覧セラルヽ

ニ

ノトナニトミテラ(カレハギヤウソト)
毛(カイ)乃止奈尓止。美(物)知(ミ)乎(ヲ)万加礼波。経(ヘ)乎曽(ソ)一(ヒ)
(キ)リ(ロ)ケテ(コエテ)ソ(ヲ)ケル(路)ラト(ソ)
万支。美川介太留乎。止利比呂介天。已恵乎

安介天。乎年毛乃波。仏説乃奈加乃摩訶乃
盤若乃心経。奈利介利 月宴

梁塵秘抄 夫木 題 第廿

甲斐仁於加之支。山乃名波。之良根奈美咲。
之保乃山年呂不之波麻山須須乃之
介礼留祢波方山

今様四首 拾玉集 第五

花

今様梅花物語 三月

今様カクレキハ面白也ラヲナミ咲ハ雪ニテ花ノ波ナリスズハ大峯ニ多キ草トイリ續古今ヨヨコルスンニヤノ朝戸出ニ山陰クラキ冬ノ松カセ僧正行意哥ナリホノ山古今ニホノ山サンテノ磯ニナリ千鳥君カミ代ヲハチ代トソナク

南方紀傳南朝元中元年三月大雪フルコト八尺甲斐ノ國塩山南帝ノ勅願寺トス玉フニ

春乃也奥比能。安計保乃丹四方乃山辺乎
見和多世波。花尤加里毛。之良雲乃加加
良奴峯古曽奈加里介礼

郭公

波奈多知波奈毛。仁保不奈里軒乃安也女
毛加保留奈里介利

郭公名告之天

月

秋乃波之女乎。奈里（アキノハレメニナリ）奴礼婆。古止志乃名加
婆波。須支仁乎里我（バハスキニケリロガ）世不介行。月加介乃。加
太不久美留古曽哀奈礼（介テ）（ソアハレナレ）（更）（傾）

雪

冬乃与九九乃。朝保良介。和支里之山路丹。
雪不加之心乃安止（ユキフカレコロノアトモ）彼。川加祢止毛。於毛比
也留古曽哀奈礼（ヤルコソアハレナレ）（跡）（雖著）（思）

遣

知足院禅定殿下ノ御ニ云々万歳楽ハ

公私ニ付テ。祝所ニハ必ス。舞トイヒ楽
トイヒ先奏之後ニコソ何ノ曲ヲモ用
井テ。侍ル。誠ニ月出キ曲ニテ侍ナリ

ナニハノ事モ名ニヨリテ其徳ラアラ
ハス事ナレハ。尤其謂アリテオホヘ侍
リサレハイヒノ今援ニモ

祝乃所尓。吹笛波。地久美濃山。黄鐘調。君加
与波比波。万歳楽

国立国会図書館　タイトル『万葉緯 20巻』 請求記号 862-77
ガラス使用

862
20
77

17162

トイヘリ　續教訓抄

国立国会図書館　タイトル『万葉緯 20巻』 請求記号 862-77

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『万葉緯 20巻』 請求記号 862-77

ガラス使用